



一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

一般社団法人AIガバナンス協会 ご入会案内

目次

1. 団体概要

2. 活動実績

3. 入会手続のご案内



1. 団体概要

Overview





一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

一般社団法人AIガバナンス協会は、AIに関わるあらゆるステークホルダーが集まるフォーラムとして、適切なリスク管理を通じてAIの価値を最大化する取組である「AIガバナンス」があたりまえのものとして定着した社会の実現をめざします。

一般社団法人AIガバナンス協会 = AIGAが重視する価値

イノベーションの促進

マルチステークホルダー
での信頼構築

社会的な価値の実現



協会概要データ

| | |
|---------------|--|
| 名称 | 一般社団法人AIガバナンス協会 |
| 英称 | AI Governance Association (略称: AIGA) |
| 設立日 | 2024年10月1日 |
| 代表者 (代表理事) | 大柴行人 Robust Intelligence 共同創業者・Cisco Director of AI Engineering 生田目雅史 東京海上ホールディングス 専務執行役員 グループCDO 羽深宏樹 スマートガバナンス 代表取締役CEO・京都大学特任教授・弁護士 |
| 理事 | 瀬名波文野 リクルートホールディングス 取締役 兼 常務執行役員 兼 COO 勝木朋彦 KDDI株式会社 取締役執行役員常務 CSO 兼 CDO 経営戦略本部長 兼 オープンイノベーション推進本部長 山本忠司 三菱UFJフィナンシャル・グループ 執行役常務 リテール・デジタル事業本部長兼グループCDTO |
| 業務執行理事 | 佐久間弘明 一般社団法人AIガバナンス協会業務執行理事 兼 事務局長 長谷友春 有限責任監査法人トーマツ パートナー |
| 監事 | 鶴野智子 CSRデザイン環境投資顧問株式会社取締役・公認会計士 |
| 所在地 | 〒104-0061 東京都中央区銀座1-12-4N&E BLD.7階 |
| URL | https://www.ai-governance.jp/ |

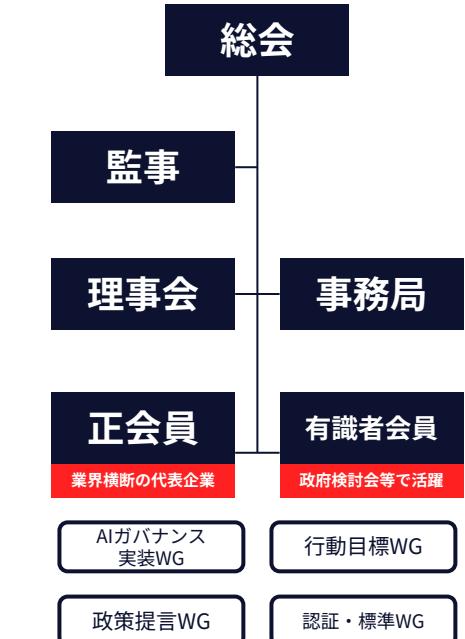
2024年10月に一般社団法人化し、会員数は現在126社に到達 AIガバナンスの社会実装における業界横断のハブとしてプレゼンスを確立

AIガバナンス協会正会員数の推移

通常枠 SMB・スタートアップ



業界横断のリーダーが理事会を主導し、AIガバナンスの社会実装を推進



正会員数は126社まで拡大。業界カバレッジも広がっている

正会員社(和名五十音順)

*ロゴは2025年11月現在のHP掲載分。一部企業は未掲載。



金融

保険

通信

IT

グローバルテック

HR

製造

インフラ

ヘルスケア

AIガバナンス社会実装の民間のハブ・AIGAの特徴



AIガバナンスに特化した日本唯一の民間コンソーシアム

- 企業が前向きにAIを活用するための基盤としての、「攻めのAIガバナンス」のスタンダード形成
- 「AIガバナンスナビ」を基調とした、地に足のついた「社会実装」を強く意識した自主取組



諸業界のリーダーを含む充実した会員ネットワーク

- 金融、保険、通信、製造、IT、AI開発者……諸業界のトップ企業が集まり、多様な視点からAIガバナンスを検討
- 企業のAIガバナンス担当者や、政府会議等でも活躍する有識者会員が知見を交換する最先端のコミュニティ



グローバルな政策決定者やステークホルダーとの連携

- 自民党、中央省庁、AISI、海外政府、他の関連団体といった多様な関係者との強力なコネクション
- パブリックコメント・政策提言を通じた政策形成への参加や、民間の実践知を生かした公的機関との連携

2. 活動実績

Track Record



活動実績サマリ

AIの開発・提供・利用まで多岐にわたる会員の知見・リソースを活用し、以下の取組を推進

- 1. AIガバナンスのスタンダードづくり**
- 2. 幅広い政策提言や認証制度の枠組検討**
- 3. 関係者のコミュニティづくり**



AIガバナンス行動目標: 民間の自主目標として全会員がコミット

AIガバナンス構築において重視する価値

社会的な価値の実現

マルチステークホルダー
での信頼構築

イノベーションの促進

AIGA基本方針 (AIGAの活動方針)

- AIガバナンスの民主化
- 横断的な共通認識の醸成
- アジャイル・ガバナンスの実装
- リスクベースアプローチ
- 國際的な議論への参加と社会規範創出への貢献

AIガバナンスアクションプラン (会員企業の努力目標)

各類型のリスクへの対応

- 個人情報・プライバシー
- 知的財産権の保護
- 安全性・性能の確保
- 公平性の確保
- 悪意ある主体への対策
- サプライチェーンリスク
- 人間-AI間の相互作用への安全な設計
- 高い自律性をもつAI（エージェント等）とのより良い協働

リスク対策のための手続

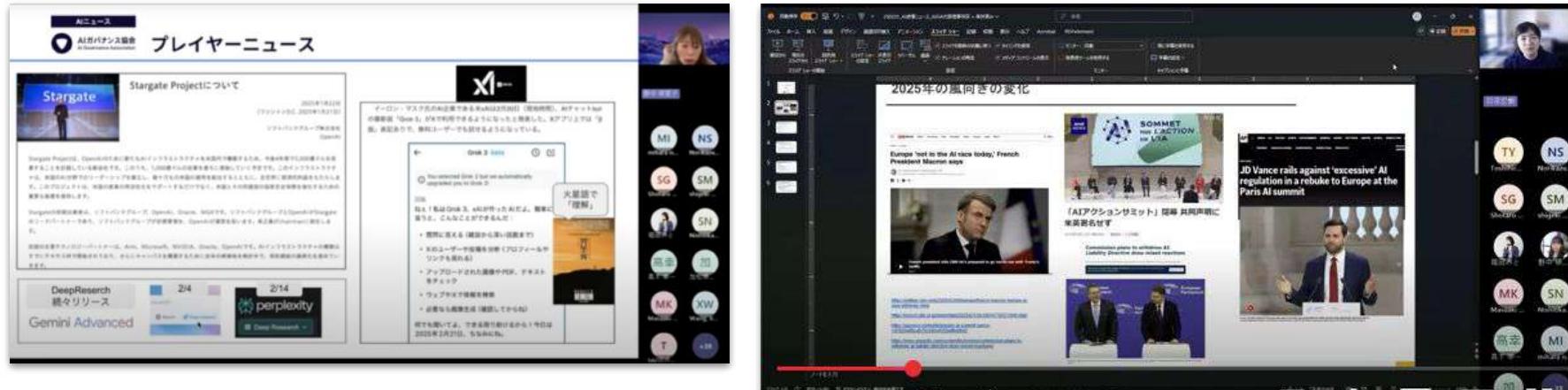
- 継続的なリスク管理
- 客観的な視点の導入
- 対外的な説明
- 教育・リテラシー向上の推進

2025年改定で追加



AIGA Monthly All-Hands (月次ミーティング) の実施

- 毎月、①AIGAの活動報告、②新規会員の自己紹介、③最新のニュースの共有、④会員事例紹介（AIガバナンス研究会）等をコンテンツとする全体会を実施



AIGA Monthly All-Hands: 企業事例を紹介しあい、知見を蓄積

- 自社におけるガバナンス部門の役割や、社内活用事例、研修プログラムなどAIガバナンスに関する取り組みを紹介するAIガバナンス研究会を毎月1回程度のペースで開催

過去の登壇企業（一部）



みずほフィナンシャルグループ



三菱UFJフィナンシャル・グループ



SOMPO
ホールディングス



有識者による知見提供や、互助的な自主企画AIGA Stand-Upも実施

- 企業事例の紹介を補う形で、特定の政策や実務トピックについて有識者を招いて勉強会を実施
- 相互の情報提供を前提に、会員がより具体的な課題に関して車座で議論する「AIGコモンズ」を開催し、他社事例を深く知りたいというニーズにも対応

制度・実務トピックについての有識者勉強会



AIGA Stand-Up

- 会員企業により自主企画コンテンツ
- 特定テーマでの座談会や研究の紹介、知見の共有など、様々な知見の共有を目的に開催





AIGA Spotlight : 短時間で最新のトピックについて解説するラジオ企画

- 有識者から30分、最先端のトピックについて伺うラジオ企画を実施



AIGA Spotlightとは

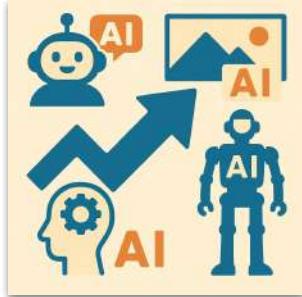
- 「30分で、最先端にふれる」をテーマにしたスマートトーク企画
- 最新のAI関連ニュースやトピックについて、AIGA内外の有識者・実務家のみなさまをお招きしてお話を伺う
- 今後も、AGIの開発動向、経済安全保障の観点、性能や保護策といったテクノロジーの進歩などの観点でのスマートトークを実施予定

過去開催回

- #1: AI制度研究会「中間取りまとめ（案）について」（有識者会員殿村弁護士）
- #2: DeepSeekのリスク（シスコシステムズ大柴理事）
- #3: 経産省発行のAI契約チェックリストについて（経済産業省宇田川調整官）
- #4: 「AI事業者ガイドライン（第1.1版）」公開 改定のポイントと企業実務への期待とは（有識者会員福岡弁護士）
- #5: グローバル先進企業の事例から考える、るべきAIガバナンスとは（野村総合研究所 渡辺翔太氏）
- #6: 施行が進むEU AI Act、対応のポイント（中央大学実績教授）



AIガバナンスの共有知を蓄積するツール「AIガバナンスナビ」



⌚ 激しい技術・制度の変化

ビジネスで実装される技術、制度、攻撃・防御手法の変化が激しいため、確立されたプラクティスに倣う手法が取りづらい



?] 規範・ガイダンスの乱立

策定主体、法的な効力、目的、スコープ、粒度の異なる多数のガイダンス・文書を総括して取組を方向づけるのは容易でない

「AI事業者ガイドライン」の背景・目的

- 生成AIに代表されるように、AI関連技術は日々発展をみせ、利用範囲と可能性は広がる一方で、産業におけるノーマン・ボーナーが社会課題の解決に向けても活用されています。
- 既存においては、Society 5.0の実現に向け、AIの倫理的な活用に対する期待が高まっています。
- 就効性は、G7におけるAI開発原則に則った提案を実現けいし、G7-G20のOECD等の国際機関での議論をリードしています。
- これらは、AI技術に対するAIガバナンスの統一的な指針を示すことで、イノベーションの促進及びデジタル化と社会リスクの緩和を両立する枠組みを関係者と連携しながら共創していくことを目指します。

技術革新 Society 5.0の実現 国際的議論

「AI事業者ガイドライン」を策定

AIに関する規範、国際的な動向、G7・G20・OECD等の機関によるAIのリスクを正しく認識し、必要な対応をガイドするための規範であります。これに従事して、
イノベーションの促進及びデジタル化にあたりリスクの緩和を両立する枠組みを
関係者と連携しながら共創していくことを目指す

▣ 企業の自主取組への期待

国内ではGLをベースに自主取組が期待され、ケーススタディ・実例に沿って取組内容・水準の具体化を進めていく必要性

AIガバナンスナビ = AI事業者のAIガバナンス構築の取組の成熟度チェック



AIGA会員各企業がAIガバナンスの取組の成熟度を自己診断するツール

AIガバナンスナビ = AI事業者のAIガバナンス構築の取組の成熟度チェックツール



AIGAの会員企業が、政策・標準や他の会員企業の取組状況をベンチマークとして、自社の組織としてのAIガバナンス構築の取組の成熟度を自己診断し、自社の取組の強み・弱みを把握できるようにするツール

実践のスタンダード作り

- Ⓐ AIGA会員企業にとって、AI事業者としてAIガバナンス構築に必要な取組事項を把握するまでの実践的なガイドを提供
- Ⓐ 回答集計・研究会等を通じて最新のプラクティスや課題意識を反映

協会活動のペースメーカー

- Ⓐ AIGA会員で定期的に自己診断を実施し、諸産業全体としての進捗度を把握
- Ⓐ 項目別に自己診断の結果を分析し、全体の成熟度向上のためにフォーカスすべき議論・取組事項を特定

政策・標準との接続

- Ⓐ AI事業者ガイドライン等への対応関係を明確にし、企業の取組の政策への準拠を支援
- Ⓐ 対外的な観点で、AIGA会員全般の政策への対応状況を把握・発信

国内外の政策・標準を参照し5つの取組領域、全36の取組項目を整理

| 全社・組織としての対応を要する項目 | | ユースケースに応じて内容が変化する項目 | | 全社・組織としての対応を要する項目 | |
|--------------------------|--|---|--|---|---|
| 区分分類 | ルール・プロセスの明文化 (6) | 周知徹底・人材育成 (5) | 組織体制整備 (5) | 各リスク領域への対策 (10) | 透明性・アカウンタビリティ確保 (10) |
| ver1.1 での 取組 項目 | 1 AIポリシー 2 AI利用ルール 3 AI管理ルール 11 ガバナンス全体の不断の見直し 12 リスクベースアプローチ 13 ハイリスクなAIへの対応 | 4 AIユースケースの把握・整理 5 社内ルールの浸透 34 活用段階に応じた人材要件の定義 35 AIリスクについての周知徹底 36 AIリスク管理を担う人材の育成 | 6 経営層のオーナーシップと役割分担の明確化 7 AIガバナンス構築の戦略的位置付け 8 関連領域の知見の集積・交流 9 社内における客観的な視点の確保 10 インシデント発生時の対応フローの確立 | 14 個人情報・個人データの適正な取得 15 個人情報・個人データの適正な利用 16 データ取得における知的財産権の尊重 17 AIの利用における知的財産権の尊重 18 AIの設計における人間との相互作用のあり方、多様性・包摂性の考慮 19 AIの精度低下や出力の誤りへの対策 20 AIのバイアス・倫理的に問題のある出力への対策 21 AIの悪用への技術的対策 22 AIに対する攻撃への技術的対策 23 AIの悪用や攻撃へのルール設計による対策 | 24 繙続的なリスク管理 25 組織やルールに対する外部の視点からの検証 26 第三者による技術面のリスク検証 27 ステークホルダーとの対話 28 バリューチェーン全体でのガバナンス実現 29 透明性の確保 30 アカウンタビリティの確保 31 監査可能性の確保 32 データのトレーサビリティの確保 33 環境・持続可能性への影響の考慮 |

AIガバナンスナビ: スコア付けと活用のイメージ

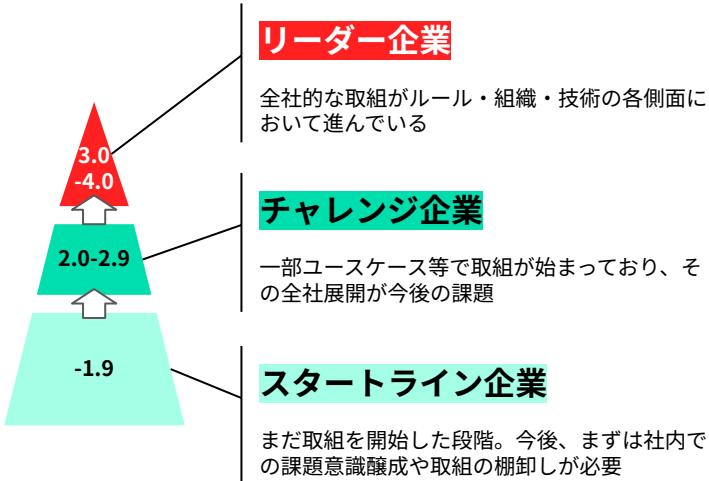
- 各項目の取組状況を4段階で評価。
「未着手/わからない」が最も低評価
- 「開発者・提供者」と「利用者」の取組
は、それぞれ自社が該当する項目を確認



社内事例の有無を重視してスコアに差をつける



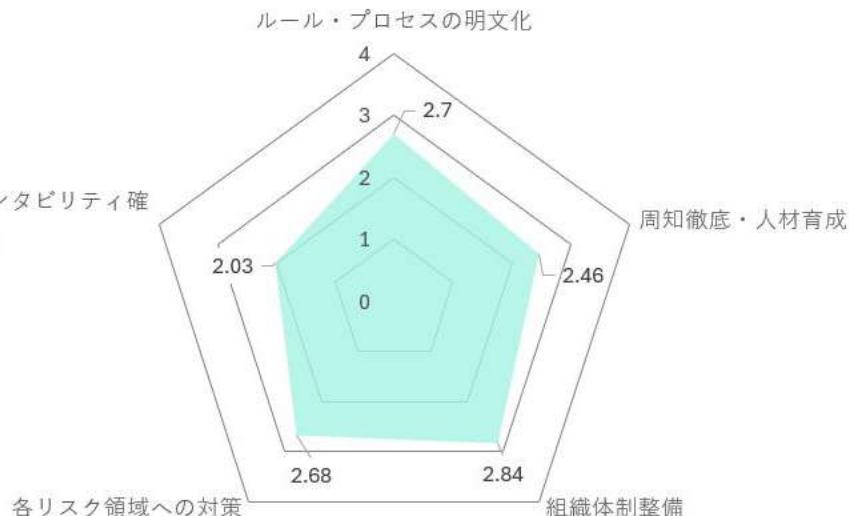
- 各項目のスコアの平均値を計算し、全体スコアに応じて企業としての進捗度を評価
- ただし、全体スコアよりも項目別にみて
「穴を探す」ことの方が重要



個人情報関連など既存ルールの応用は進んでいるが、AI特有の継続的な管理はまだ道半ば

全体平均: **2.50点**

ver1.1自己診断企業の領域別平均点



- 全体傾向は診断開始以降一貫しており、透明性・アカウンタビリティに課題感がある
- ver1.1から診断に参加した企業においても既存の統制プロセスをAIガバナンスにも応用していると考えられる
- AI・生成AIの継続的な管理、ハイリスクな業務での活用は道半ばであり、ユースケースの成熟とともに各企業に求められる対策が具体化され、低得点領域の取組も進むと考えられる

AIガバナンスナビの定期改定

- 約半年ペースでの一斉自己診断に併せ、診断項目や採点基準、UXなどの改定を実施
- 回答企業から寄せられた改善要望や、フィードバックに加え、国内外のAI関連法規制や標準類のアップデート、技術の発展を踏まえて改定項目を決定
- ver1.1（25年9月実施）からver2.0（26年4月実施予定）への改定より、AIガバナンスナビSWGを組成し、専門知識を有する会員企業有志で構成される専門委員会が改定方針の策定を行う体制に強化

The image shows a document titled 'AIガバナンスナビver1.1の改定内容' (Changes in AI Governance Navigator ver1.1) and 'AIガバナンスナビver1.1の主な更新点' (Main updates of AI Governance Navigator ver1.1). It includes sections on '3点・4点の明確化' (Clarification of 3 and 4 points), '5箇成36項目は大きく変える必要なし' (No major changes required for 5 items out of 36), and '会員から「本革」「シカ等アリ」「AIがおかねない」とのフィードバックが多かった設問がある' (Many questions from members received feedback such as '本革', 'シカ等アリ', and 'AIがおかねない'). The document is dated '2025年8月21日 (木) 13:00-14:00 @Teams'. The footer of the document page includes the logo of '一般社団法人 AIガバナンス協会 AI Governance Association' and the text 'AIガバナンスナビver1.1検討委員会' (Review Committee for AI Governance Navigator ver1.1) and 'AIガバナンスナビver1.1検討委員会' (Review Committee for AI Governance Navigator ver1.1). The page number '11' is visible in the bottom right corner.



個人情報・データの適正な利用に関する改定事例

| | 取組事項 | 取組例2(1点) | 取組例3(3点) | 取組例4(4点) |
|--------|--|--|--|--|
| ver1.0 | <p>AIモデル・サービスによる個人情報・個人データの処理にあたり、個人情報保護法に違反する利用や目的と関連性のないデータの利用、プライバシー侵害にあたる利用が発生しないよう、適切な手続きを行なう仕組みを構築している</p> <p>＞本事項に取り組まない場合、法令(個人情報保護法)違反、AIモデル・サービスによる不適切な出力、適正な手続の欠如によるユーザからの苦情・訴訟等に発展するおそれがある</p> | <p>AIモデル・サービスによる個人情報・個人データの個人情報を利用する場合の社内規定が整備されており、個人情報保護法に違反する利用や目的と関連性のないデータの利用、プライバシー侵害にあたる利用が発生しないよう、適切な手続きを行なう仕組みを検討している</p> | <p>また、研修などを通じて従業員に対しても個人情報を利用する際の注意点を周知する仕組みが整っている</p> | <p>個人情報を利用する場合には、個人情報の専門家による監査が実施される体制が確立されている</p> <p>特に利用するAIサービスが個人情報保護法や社内のセキュリティポリシーに違反していないか、個人情報・個人データとそのほかデータを突合しAIに処理させることによって当該個人のプライバシー、人格権関連の権利・利益、財産を侵害することがないかを確認するプロセスが整っている</p> <p>また、研修などを通じて従業員に対しても個人情報を利用する際の注意点を周知する仕組みが整っている</p> |
| ver1.1 | 変更なし | <p>AIモデル・サービスによる個人情報・個人データの個人情報を利用する場合の社内規定が整備されており、個人情報保護法に違反する利用や目的と関連性のないデータの利用、プライバシー侵害にあたる利用が発生しないよう、適切な手続きを行なうための社内規定の策定検討や、従業員への周知計画を策定するなど、具体的な仕組みの構築に向けた検討をしている</p> | <p>AIモデル・サービスによる個人情報・個人データの個人情報を利用する場合の社内規定が整備されており、個人情報保護法遵守のためのチェックプロセスが導入され、運用されている</p> <p>また、研修などを通じて従業員に対しても個人情報を利用する際の注意点をや社内規定の遵守を周知する仕組みが整っており、その遵守状況を定期的に確認している</p> | <p>3点の取り組みに加えて、個人情報を利用するAIサービスについては、利用開始前および定期的に個人情報の専門家による厳格な審査・監査が実施される体制が確立されている</p> <p>特に利用するAIサービスが個人情報保護法や社内のセキュリティポリシーに違反していないか、個人情報・個人データとそのほかデータを突合しAIに処理させることによって当該個人のプライバシー、人格権関連の権利・利益、財産を侵害することがないかを確認するプロセスが確立されており、そのプロセスが継続的に改善されている</p> <p>また、研修などを通じて従業員に対しても個人情報を利用する際の注意点を周知する仕組みが整っており、従業員からの疑問や懸念を吸い上げ、適切に対応する体制も構築されている</p> |

データ取得における知的財産権の尊重に関する改定事例

| | 取組事項 | 取組例3(3点) | 取組例4(4点) |
|--------|---|---|---|
| ver1.0 | <p>AIモデル・サービスの学習データ、入力データ、検索拡張生成等に利用するデータの種類やデータの利用方法について、法的な専門家の助言も踏まえたうえで社内ルールが確立されている</p> <p>用いるデータベース用のデータを取得する際に、著作物や他者の登録商標等を適法に利用するための仕組みを構築している</p> <p>>本事項に取り組まない場合、法令(著作権法、意匠法、商標法等)に定められた権利の侵害に発展するおそれがある</p> | <p>AIモデル・サービスの学習データ、入力データ、検索拡張生成等に利用するデータの種類やデータの利用方法について、法的な専門家の助言も踏まえたうえで社内ルールが確立されている</p> <p>著作物や他者の登録商標を利用する可能性がある場合には、知財部門に相談する仕組み・ルール化が整備されている</p> | <p>AIモデル・サービスの学習データ、入力データ、検索拡張生成等に利用するデータの種類やデータの利用方法について、法的な専門家の助言も踏まえたうえで社内ルールが確立されている</p> <p>著作物や他者の登録商標を利用する可能性がある場合には、知財部門または外部専門家にアジャイルに相談する仕組み・ルール化が整備されている</p> |
| ver1.1 | 変更なし | <p>利用するデータの種類やデータの利用方法について、法的な専門家の助言も踏まえたうえで社内ルールが確立されおり、そのルールに基づき、データ取得時の基本的なチェックプロセスが運用されている</p> <p>著作物や他者の登録商標を利用する可能性がある場合には、知財部門に相談する仕組み・ルール化が整備され、関係者への周知が徹底されている</p> | <p>3点の取り組みに加えて、AIの特性(生成AIによる学習データからの偶発的な生成物の出力等)を考慮した、より高度な知的財産権侵害リスク評価プロセスが導入され、継続的に運用されている</p> <p>著作物や他者の登録商標を利用する可能性がある場合には、知財部門または外部専門家にアジャイルに相談する仕組み・ルール化が整備されている</p> <p>また、AIと知的財産権に関する国内外の最新の法改正や判例、議論の動向を継続的にモニタリングし、その結果を社内ルールやプロセスの見直しに反映させる仕組みが構築されている</p> |

活動実績サマリ

AIの開発・提供・利用まで多岐にわたる会員の知見・リソースを活用し、以下の取組を推進

1. AIガバナンスのスタンダードづくり
2. 幅広い政策提言や認証制度の枠組検討
3. 関係者のコミュニティづくり



政策提言: 会員意見を集約し、パブコメや政策提言を積極的に実施

- 生成AIの流行に伴い、急速に変化する各種政策・ガイドライン類について、会員意見を集約してパブリックコメントを提出
- 自民党やAI制度研究会の検討を背景に、積極的な政策提言も実施

各種政策・ガイドライン類へのパブコメ提出

- AI活用と関連する各種政策類について、会員アンケートを機動的に実施しパブコメを提出。具体的には下記など
 - [AI事業者ガイドライン](#)
 - [著作権に関する文化庁取りまとめ](#)
 - [個人情報保護法の改正検討（ヒアリング）](#)
 - [AI戦略会議・AI制度研究会中間とりまとめ](#)
 - [政府のAI調達ガイドライン](#)
 - 「AI法」に基づくAI基本計画・指針

重要アジェンダについての政策提言

- 2024年4月、[自民党AIPTへ意見提出](#)
- 2024年10月、AI制度の検討についてのアンケート結果を踏まえた[政策提言を公表](#)



活動初期のアウトリーチ活動と自民党AIPTへの参加

2024/2/21 自民党AIPT登壇 ([PR TIMES](#))



- AIガバナンスを社会実装に移すにあたり、AI活用の現場に最も近い団体であるAIGAが積極的に政策や技術標準の議論の場に参画する方向性を提言
- 個別法等関係法令の議論への参加、AISI含む国内外の関連機関とのコラボレーションなどへの期待が寄せられた

2024/12/19 記者発表会 ([PR TIMES](#))



- 行動目標・パブコメ提出などの活動成果についてリリース
- 今後の活動強化において、
 - A) 行動目標へのコミットメント拡大
 - B) AIガバナンスの実践知の蓄積・深化
 - C) 政策形成の場への参画・知見提供を目指す方向性を発表

認証制度の検討: 認証への会員ニーズや、あり得るオプションを整理



- 認証・標準WGの活動成果として「AIガバナンス認証制度に関するディスカッションペーパー ver 1.0」を発行
 - 策定プロセスでは、会員全体へのアンケート調査や、深掘りのインタビュー調査を実施。**AI開発者・提供者・利用者**それぞれの視点でのニーズや課題を明確化
 - 今後様々な議論のフォーラムで本検討成果の発信や、残された論点の議論提起を行っていく予定

活動実績サマリ

AIの開発・提供・利用まで多岐にわたる会員の知見・リソースを活用し、以下の取組を推進

- 1. AIガバナンスのスタンダードづくり**
- 2. 幅広い政策提言や認証制度の枠組検討**
- 3. 関係者のコミュニティづくり**



AIガバナンスをめぐるステークホルダー・有識者の議論の場づくり

2024/3/21 AIGA Meetup #1



2024/4/19 駐日EU代表部イベント



2024/6/17 村井官房副長官（当時）との対談イベント



2024/10/25
一社設立記念シンポジウム



2025/3/17 AIGA Meetup #2



EU標準化団体、Yale大学などの
海外有識者とのセッション



2024年10月一般社団法人化。民間発の自主取組と渉外・提言活動を拡充

2024/10/25 設立記念シンポジウム



新体制のご紹介と役員挨拶を実施

「AIガバナンスナビ」のトライアル報告セッション

産学官を横断し、AIガバナンス領域のリーダーが登壇

自民党（デジタル大臣）、日本マイクロソフト、KDDI、
博報堂DYホールディングス、AI Safety Institute、
GPAI東京専門家支援センター、産業技術総合研究所



一般社団法人化はEnterpriseZine、NIKKEI Tech Foresight、日経XTECHなどで取り上げられ注目が集まる



AIガバナンスの“実装フェーズ”を主導する存在として活動を加速

2025/11/28 年次シンポジウム



会員企業・メディア・政府関係者など180名以上が参加

「AIガバナンスナビ」自己診断結果の報告セッション

経営・政策など多様な分野の専門家が議論を実施



(ネットワーキングセッションの様子)

3. 入会手続のご案内

Membership Information



企業・団体 (=法人) はいずれも「正会員」枠での入会をご案内

| | 要件 | 総会議決権 | WG活動・ イベントへの参加 | 会費 |
|-----------------------|---|--------------------|---------------------------|--|
| 正会員 (通常枠) | AIGA活動の趣旨に賛同し、活動に参画する 企業・団体 (資本金1億円より大きいもの) | あり (1社1口) | 可能 (案件性質により複数名参加等も可能) | 上期 (10月～翌3月) 入会の場合 入会費10万円+年会費50万円 下期 (4月～9月) 入会の場合 入会費10万円+年会費25万円 |
| 正会員 (SMB・スタートアップ枠) | 資本金が1億円以下の企業 (親会社の資本比率が50%を超える法人を除く) | あり (1社1口) | 可能 (案件性質により複数名参加等も可能) | 上期 (10月～翌3月) 入会の場合 入会費5万円+年会費10万円 下期 (4月～9月) 入会の場合 入会費5万円+年会費5万円 |
| 有識者会員 | 理事又は監事の推薦を受け協会活動に対する助言及び見解提示を行う 有識者個人 | なし (オブザーバ参加も可能) | 登壇・助言等を通じて関与 (オブザーバ参加も可能) | なし |

オンラインフォームからの入会お申込を随時受付中

ご同意事項

「AIガバナンス行動目標」を共同宣言
し、活動に参画いただくことへの合意
<https://www.ai-governance.jp/ai-governance-action-agenda>



定款および下記規程類への合意

会員規程

[秘密保持誓約](#)



[個人情報保護方針](#)

[反社会的勢力排除に関する誓約](#)



手続の流れ

※有識者会員の場合は会費支払がないため、5及び6の手続がスキップとなります

1. ご同意事項のご確認

ご同意事項について同意いただけることをご確認ください

2. 入会申込フォームのご入力

[当協会webサイトのフォーム](#)から必要情報をご登録ください

3. 事務局における申請内容の確認

不備等がある場合には個別に内容の確認・補正を実施させていただきます

4. 理事会における入会承認

直近の理事会（毎月中旬頃を予定）において、入会審査を実施します

5. 審査結果・会費ご請求のご案内

事務局から審査結果及び会費お振込先情報をお知らせします

6. 会費納入の確認

会費のお支払が確認でき次第、ご入会手続は完了となります

7. 会員資格発行のお知らせ

事務局から会員ロゴの掲載やメーリス等への登録についてご案内します





一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association